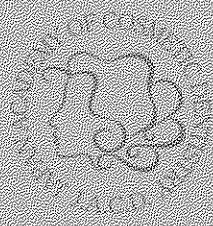


JAPAN ACADEMY OF COSMETIC DENTISTRY

齒科漂白

The JOURNAL of

The Official Journal of
The Japan Academy of Cosmetic Dentistry
An Affiliate of the ASDA



Cosmetic Whitening

Vol. **2**
2004

芸術至上主義

国 挙のたびに政治家の政策論争を耳にする機会が増えてくる。一人一人の意見を聞いているとそれぞれ納得できるが、少しずつずれてくる。挙句の果て、党間論争ともなれば幼少期の綱張り争いに他ならない。医療はおろか歯科医療を向上する議論など到底期待できそうにない。

同じことが会社の役員会でおきていたらその会社の命運は悲劇である。家庭内では両親の喧嘩は子供の心に傷を残すこともある。しかし、傑作はこのような世の中においても、どんな家庭環境からでも生まれてくる。むしろ苦難を乗り越えたほうが感性は育ちやすいのかもしれない。

大 学時代にボストン美術館大学の抽象画の教授にある教えを被ったことがある。抽象画における傑作を見分けるにはその絵の中で空間が構成されているかどうかを見分けなければならない。その空間を構成する個々の色の持つ価値がそれぞれ共鳴しあって別の価値を構成し、すべての色の構成に秩序が備わってはじめて空間が存在してくる。絵を見るときに花でも葉っぱでも猫でもいいから生物を絵の前において観るといい。その生物と絵が一体化して見えたときは空間が構成されていて、生物が浮いて見えるときは秩序だった構成が存在していないという。葉っぱ1枚で傑作を見分ける技を授かったわけである。

昨 年は男声合唱団に入団してウーンやベルリンを含めて7つの公演をこなした。週4回にも及ぶ練習と本番を通して、作曲家や指揮者が傑作を生み出していく過程に触れることができた。音取りは1回でできないし、楽譜も読めないが、人生経験が豊かであることだけがたよりの百数十名の団員達の声をひとつにまとめ、さらにオーケストラを同時に操る技はまさに神業であった。個々の音の持つ価値がそれぞれ共鳴し、コンサートホール全体に音の空間を創り出し、さらにテンポという時間軸が伴う。団員の集中力と音のイメージそして音をどこに向けて発するかというターゲット、これらを明確にしていくことが指揮者の手腕のようである。

一 昨年のAAC Dハワイミーティングのメインタイトルは“From Solo To Symphony”で、キーノートに指揮者が招聘されていた。米国では専門医制度の反省から口を揃えてInterdisciplinary、つまり専門医のコラボレーションを謳ってきている。一方わが国では、最近になって歯科の専門医制度が制定された。

日本のビジョンに一枚の葉っぱを照らしてみると、明らかに浮いて見える。しかし、こんな世の中だからこそ研ぎ澄まされた感性が育つのではないだろうか。プロフェッショナルを育て、指揮するのは知識でも技術でもなくまぎれもなく感性そのものである。

Editor 中原悦夫



「Flowers and Books」シリーズ 1998年
53.0×45.5cm 油彩・キャンバス

THE JOURNAL OF COSMETIC WHITENING

第2巻第1号 平成16年2月15日発行

発行人 松尾 通

編集人 中原 悦夫

発行所 日本歯科漂白研究会

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-29-24-304

電話・FAX 03-3462-5720

レイアウト：石塚 洋子

印刷：よしみ工業株式会社